

## 1. 社会・治安情勢

リオデジャネイロ州全域で拳銃，機関銃，手榴弾等を使用した殺人，強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。特に，近年，リオデジャネイロ市内に約1,000箇所存在するといわれるファベラ（貧民街）を中心に，麻薬密売組織間の銃器を使用した抗争が頻発し，治安に重大な影響を与えてきた。これを受け，軍警察は，2008年に最初の軍警察治安構築部隊（UPP）をドナ・マルタ地区のファベラに設置し，以降，大規模な制圧作戦を継続している（2015年10月現在，リオ市内に計39のUPPを設置し，267のファベラを管轄）。

UPPをはじめとした治安当局による麻薬密売組織対策活動において度々銃撃戦が発生しているほか，治安当局の取締りに反発するファベラ住民と軍警察との間の抗争も活発化しており，流れ弾による一般市民への被害も散見される。

また，依然として貧困層の若者による「アハスタウン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件が市内中心部，海岸及び幹線道路沿いで後を絶たない（本年に入ってから，これまで安全と言われてきた南部地区の地下鉄内においてもアハスタウンが連続発生）。治安当局もこれらの取締りを強化しているが，法律上の問題もあり，逮捕した被疑少年の多くがすぐに釈放されてしまう等，警察による取締りが治安改善に直結していない問題がある。

2016オリンピック・パラリンピック・リオ大会開催に向け，リオ州政府としても，治安を担当する公安局を中心として，一般治安の改善を最優先課題の一つとして取り組んでいるが，市民の体感治安はむしろ悪化している現状にある。

## 2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

### （1）第2四半期総括

州政府は凶悪犯罪対策に注力しており，殺人，強盗の発生数はUPPが設置された2008年以降2012年まで減少傾向にあった。しかしながら，2013年初頭から再び増加に転じ，2014年以降，その傾向が特に顕著になっている。また，窃盗総数及び犯罪総数にいたっては，過去10年間軒並み増加傾向にある。

一般治安悪化の理由については，まずは当地の経済事情の悪化が挙げられるが，相次いで新設されたUPPに多数の人員を配置したため，既存の警察署の人員不足が深刻化したことや，リオ+20，コンフェデ杯，ローマ法王来訪，昨年ワールドカップと大規模行事が立て続けに開催され，これらに対する警備及び大規模デモ対策に多くの人員を割かれ，人員不足が一層顕著になったことなども指摘されている。

第2四半期においては、特に7月中、フラメンゴ地区、ポタフォゴ地区といった邦人が多く居住し、多数の日本企業が所在する南部地区において強盗事件が多発しており、体感治安の悪化が懸念されている。

2014年のリオ市の人口10万人当たりの犯罪発生率は、日本との比較で殺人が約23倍（2013年は28倍）、強盗は約510倍（2013年は375倍）と極めて高い比率で推移している。

1. リオ州・市犯罪発生状況 2015年7月（前年同月比増減数）

	リオ州	リオ市
殺人	304（-41）	86（-1）
強姦	427（-55）	140（-23）
商業施設強盗	594（-82）	241（+5）
住居侵入強盗	96（-20）	28（-5）
車両強盗	2429（+159）	1176（+204）
路上強盗	4893（-1585）	2818（-359）
交通機関内強盗	612（+79）	308（-22）
携帯電話強盗	970（-211）	580（+150）
強盗総数	11394（-723）	6173（+89）
窃盗総数	14274（+292）	7360（+543）

2. ZONA SUL 犯罪発生状況 2015年7月（前年比）

フラメンゴ・ポタフォゴ地区

殺人	0（±0）
商業施設強盗	5（-5）
住居侵入強盗	1（±0）
車両強盗	15（+3）
路上強盗	98（-20）
交通機関内強盗	3（-3）
携帯電話強盗	24（+11）
強盗総数	177（-15）
窃盗総数	403（-37）

コパカバーナ地区

殺人	0（±0）
商業施設強盗	13（+5）
住居侵入強盗	1（±0）
車両強盗	0（-2）
路上強盗	11（-17）

交通機関内強盗	3 (±0)
携帯電話強盗	4 (-4)
強盗総数	49 (-31)
窃盗総数	431 (-64)
イパネマ・レブロン地区	
殺人	1 (-1)
商業施設強盗	9 (-4)
住居侵入強盗	3 (+3)
車両強盗	0 (-5)
路上強盗	41 (-3)
交通機関内強盗	1 (-5)
携帯電話強盗	19 (+8)
強盗総数	87 (-18)
窃盗総数	371 (-54)

## 2. 一般事件等（邦人の安全に関係するものを抜粋）

### （1）イパネマ地区の銀行前で出待ち強盗事件が発生

7月7日午後2時55分頃、リオ市イパネマ地区のヴィスコンデ・デ・ピラジャ(Visconde de Pirajá)通りとジョアナ・アンジェリカ(Joana Angelica)通りの交差点付近に位置する銀行(Banco do Brasi※邦人も多く利用)で女性1名が現金を引き降ろした。

女性が銀行を出たところ、待ち構えていた男1名がけん銃で同女を脅し、女性が所持していたカバンを引き渡すよう要求した。女性はカバンを離さず、逆に強く抱えるなどして抵抗した結果、犯人が発砲し、女性の脚に命中した。

その後犯人は、同女のカバンを奪ってラゴア方向に逃走したものの、湖内に逃げ込んだところを、追跡してきた第23州軍警察本部の警察官らによって逮捕された。女性は美容院勤務で、従業員へ渡す給料を引き降ろした直後被害に遭った模様。

### （2）地下鉄ウルグアイアーナ駅内で強盗殺人事件が発生

7月10日(金)正午頃、リオ市地下鉄ウルグアイアーナ駅の切符売り場前において、男性1名が強盗に襲われた。警察によれば、被害者は銀行で現金を引き落とした後、男3名に尾行され、地下鉄の切符売り場に並んだところをいきなり後ろから発砲されたとのこと。警察では、防犯カメラの映像等から犯人の割り出しを急いでいる。

### （3）レブロン地区の住宅街で侵入強盗事件が発生

8月4日午後3時頃～午後7時頃の間、リオ市内の高級住宅街であるレブロン地区のマンションに、犯人グループ(8名)がマンションの警備担当者か

ら各個人宅の鍵を奪ってマンション内に侵入。その後、少なくとも3世帯を連続して襲撃し、子供を含む住民を人質に取るなどして多額の現金、宝石、電気器機等を奪って逃走。事件を察知した警察は、現場に急行したが、既に犯人グループは逃走していた。

※自宅の鍵は、決して他人に預けることなく個人で保管することが必要

(4) イパネマ海岸における集団強盗事件（邦人が遭遇）

8月9日午後3時頃、イパネマ地区8番ポスト付近海岸において、邦人が海岸の西方（レブロン地区方面）から大勢の人々が東に向かって逃げている現場に遭遇した。邦人は、周囲の状況から、アハスタウン（地引き網）と呼ばれる集団強盗事件（注：通常、10～20名の少年が海水浴客を拳銃、ナイフ等で脅し、次から次へと所持品を奪っていく）と判断し、素早くその場を離脱した。

(5) リオ・スル・ショッピングセンター前における逮捕事案（邦人が遭遇）

8月9日（日）午後6時頃、リオ市内ポタフォゴ地区ショッピングセンター「RIO SUL」前路上において、邦人1名が自宅に戻るため、タクシ一乗り場に向かっていたところ、進行方向から少年1名が走ってきたかと思うと、その後方から拳銃を構えた警察官が何かを叫びながら同少年を追尾し（警察官の銃口は邦人の方向に向けられていた）、取り押さえるのを現認した（注：当地では、警察官が容易に発砲する傾向があり、これにより犯人との銃撃戦に発展するケースも散見される）。

(6) 当館広報文化センター直近における集団強盗事件（邦人が遭遇）

8月11日（火）午後3時頃、セントロ地区のサンタンデル銀行（Rua Presidente Antonio Carlos 40：当館広報文化センターから約50mの地点）において、邦人が口座手続きを終え、銀行を出ようとしたところ、出入り口が閉鎖されていた。警備員に理由を尋ねたところ、同銀行前において「アハスタウン（地引き網）」と呼ばれる集団強盗事件が発生しており、銀行外に出るのは危険である旨の説明を受けた。邦人は約15分間に渡り同銀行内に閉じ込められたが、その後開放された。

(7) セントラル駅等の爆破予告

8月14日（金）、インターネットのWHATSAPP（LINEアプリに酷似）上で、リオ市の地下鉄駅に対する爆破予告に関する情報が拡散（リオ市内の地下鉄駅を攻撃するとして以下の音声メッセージが流布）。

- 8月14日のラッシュ時（17時から19時の間）に、最も利用客が多い「パブーナ駅」及び「セントラル駅」の利用を避けるように。
- （犯人グループは）「パブーナ駅」と「セントラル駅」を爆破するため大量の手榴弾と、爆発物を購入した。
- 私は大勢の人々が死ぬのを想像したくないのでこのメッセージを送っている。

※ 公安局は上記二駅の捜索を実施，結果として爆破事件は発生せず

(8) リオ市内各海岸を中心にアハスタウンが連続発生

9月19日(土)，20(日)，リオ市内ゾナ・スール(南部地区)各地でアハスタウン(集団強盗事件)が連続発生し，約30人が強盗に関与した疑いで逮捕された。

当地では，例年，冬期が終わり，海水浴シーズンが始まる9月頃から，特に週末の午後に海岸線を中心にアハスタウンが多発する傾向にある。

(9) ニテロイ地区での殺人事件

10月3日(土)，カーナビ・アプリの誤操作が原因で，伯人老夫婦(リオ市レメ地区居住)の乗車した車両がニテロイ市内のファベラに迷い込み，その際，マフィアと思われるグループから約20発もの銃撃を受け，車両の助手席に乗っていた妻(69歳)が死亡した。

(当地では，各地に点在するファベラに入り込むと，問答無用で銃撃される危険性をよく認識し，GPSに過度に依存することなく，安全性を最優先に通行ルートを事前に吟味する必要性あり)

4. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

5. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は確認されていない。

2015年7月中，リオ州内で短時間誘拐11件(うちリオ市7件)，脅迫182件(うちリオ市82件)が発生しており，いずれも高い水準で推移している。

以上